

小学校の先生へ

みんなで支える特別支援教育

連携の重要なツール「個別の教育支援計画」の作成



児童は、家庭、学校、地域、任意のサークルなどいろいろな場でさまざまな人たちとかわりながら生活をしています。そして、それぞれの場での活動の様子は共通点とともに違いを示す場合もあります。したがって、特別な教育的な支援を必要とする児童の指導を考えていく際には、対象の児童がかかわっている関係機関同士の連携、学校内の教師間の共通理解に立った指導が重要です。

「個別の教育支援計画」は、特別な教育的支援を必要とする児童一人一人のニーズを正確に把握し、適切に対応していくという考えのもとに、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育的支援を行うことを目的とします。

個別の教育支援計画には以下のような内容が記入されます。

(以下に示すものは項立ての参考例です。)

児童のプロフィール

名前、連絡先、家族構成
生育歴等を記入します。

児童の実態

学習面、行動面、社会性の面等で児童の様子をわかりやすく記入します。

本人・保護者の願い

児童が将来、豊かな生活を送ることを願い、「こうありたい」という本人・保護者のニーズを記入します。

支援目標

保護者も支援者の一人として、その思いや願いを十分に聞き取り、関係する機関と話し合いをもちながら、協力して支援目標を設定します。児童の生活している地域の社会資源や支援機関を視野に入れることも重要です。

支援内容

支援目標を達成するために、実際どのような支援が必要となるのか、教育、医療、福祉等の関係機関による支援内容を具体的に記載します。



支援を行う関係機関

一人一人の支援内容に応じて、関係する各機関及び担当者名を明示します。病院ならば主治医名、福祉機関ならば担当者名などを記載し、連携がとりやすいように連絡先も記載されていると実用的です。



評価・引継ぎ

実施した支援についての評価及び引継ぎ事項を記入します。評価は一年間の支援のまとめであり、必要に応じて改訂します。また、就学時・進学時においては、スムーズに支援内容等が就学先・進学先に引き継がれるよう、整理します。

群馬県教育委員会
平成22年3月

個別の教育支援計画を作ってみよう

校内委員会で、「ぼく」の「個別の教育支援計画」を作成しようということになりました。保護者に話すと同意してくれました。

「どんな内容で？ いつ？ 誰が作るのか？」

作成するとなるとわからないことがたくさんあります。でも、「ぼく」に関わっているたくさんの人たちが力を合わせることで、『個別の教育支援計画』の作成には大切であると分かりました。



「ぼく」：小学校3年生。ボール遊びは好きだけど、学校の勉強はきらい。でも、テストは100点じゃないと、がまんできない。2年生の時は、怒られることが多かった。正直いろいろなことの意味がわからなかった。今は、周りに合わせることができ、少し落ち着いて行動できるようになった。2年生の時から、A先生のところに通院してる。イライラしない薬を飲んでることは友達には言ってないんだ。



「わたし」：教師になって13年目。やっと学級経営や授業の工夫に見通しがつかれるようになってきた。今年「ぼく」を担当し、戸惑うことも多い毎日。「個別の教育支援計画」。名前は何となく聞いたことがあったけど、「個別の指導計画」とは違うらしい。「ぼく」も周りも、もっと楽に実力を発揮できるようにするのに必要だって。私に書けるかしら…。

個別の教育支援計画の構成は

さまざまな様式がありますが、大きく分けると下のような三つで構成されています。

I. フェイスシート

- ・氏名、保護者氏名、住所等
- ・作成日、作成者
- ・児童の様子（興味、特徴）

フェイスシートは、毎年記入してもらって個人調査表と考えるとわかりやすいみたい。保護者の方に作成してもらってもいいのね。



II. 支援シート

- ①学年・担任名・作成日等
- ②本人・保護者の希望
- ③児童の実態
- ④支援目標・内容
- ⑤引き継ぎ事項

「個別の教育支援計画」って、この学校での「ぼく」の歴史だね。



III. 連携シート

- ・他機関との連携

連携っていうと難しそうだけど、「ぼく」のサポーター…って考えるといいのね。いろいろな人から話を聞きたいわ。



フェイスシート

作成日：平成22年5月〇日 作成者：「ぼく」の母

氏名		性別	生年月日	学 校 名
		男		
住所	(TEL)			
保護者		続柄	診断名（機関名）	
		長男		
緊急連絡先				



(得意なこと・好きなこと)
 ・ボール遊び
 ・跳び箱
 ・折り紙

(苦手なこと・嫌いなこと)
 ・予定がかわること
 ・順番を守ること、列に並ぶこと
 ・勝ち負けや点数

このところわかってもらえると楽しんだ。

支援シート

①

学年・組	担任名	作成日	学年・組	担任名	作成日
3年2組	「わたし」				

② 本人・保護者の希望

本人	「ぼく」もこうなりたいって思ってる。聞いてね。	保護者	
----	-------------------------	-----	--



③ 児童の実態

	くわしい実態が分かると支援目標や支援内容が具体的に書けるわ。でもしぼるのが難しいわ。学年の先生たちやコーディネーターに相談してみよう。
--	---



④ 支援目標・内容

支援目標	支援内容

⑤ 引き継ぎ事項

学年	引き継ぎ事項	とても良かったこと
	「ぼく」のこと、ちゃんと次の先生に伝えてほしいな。学年が変わっても、うまく行っていたことは、続けたいんだ。	








「ぼく」の周りには小さい頃からいろいろな人がかかわって応援してくれているんだ。みんないろいろな「ぼく」の姿を知っているよ。

連携シート

他機関との連携

	支援期間・支援内容	連絡先
教育	 <p>特別支援教育コーディネーター・特別支援学校のコーディネーター・教育事務所の専門相談員さんに相談にのってもらっているわ。養護教諭や図書室の司書さんなど校内にも「ぼく」にかかわってくれている人がいるわ。</p>	
医療	 <p>〇〇小児科 △△Dr</p> <p>話をゆっくり聞いてもらえて気持ちが落ち着くよ。イライラしなくなる薬をもらって、とっても楽になった。</p>	00-0000
福祉	〇〇町 保健センター 発達障害者支援センター	
家庭		
その他	<p>小さい頃の様子は保健師さんが知っているんだわ。サポーターが増えて、「ぼく」のいろいろな姿が見えてきたわ。</p> 	



一度顔を合わせておくと、その後の連絡もとりやすくなったね。

みんなで集まって「ぼく」のことを話してくれると、いろいろな「ぼく」を知ってもらえる。すごく安心するな。

- ・保護者の方と一緒に
- ・校内委員会を活用して
- ・必要な支援は徐々に書き加えて
- ・学習の記録や行動の様子などすでにある資料を活用して

「わたし」をはじめ、「ぼく」にかかわったたくさんの人たちの思いが詰まった「個別の教育支援計画」は、そのまま学校での「ぼく」の歴史です。読み返してみると、はじめは教室に入れなかったり、行事の時にその場にいるのが辛くて飛び出してしまった「ぼく」が、みんなと一緒に話を聞くことができるようになったり、一つずつ学習したことを身に付けて授業に参加できたりする姿が見えてくるでしょう。

「わたし」は「ぼく」のこれからの長い人生の中で、この瞬間に出会ったかけがえのない存在です。私たちはまさに「ぼく」の歴史の1ページになるのです。「ぼく」の歴史が素敵なものになるように、多くの人たちの「ぼく」への思いを受け、私たちは大切にその1ページを作っていきたいと思います。

日々の学習や生活での指導の手立てを見いだすための重要なツール「個別の指導計画」の作成



通常の学級で特別支援教育を進めていくためには、一人一人の個性が認められ、自分の持っている力を発揮でき、すべての児童が安心感をもって学べる学級経営が大切です。

その上で、特別な教育的支援が必要な児童に対しては、学習面や生活面での指導の手立てを導くために「個別の指導計画」を作成します。

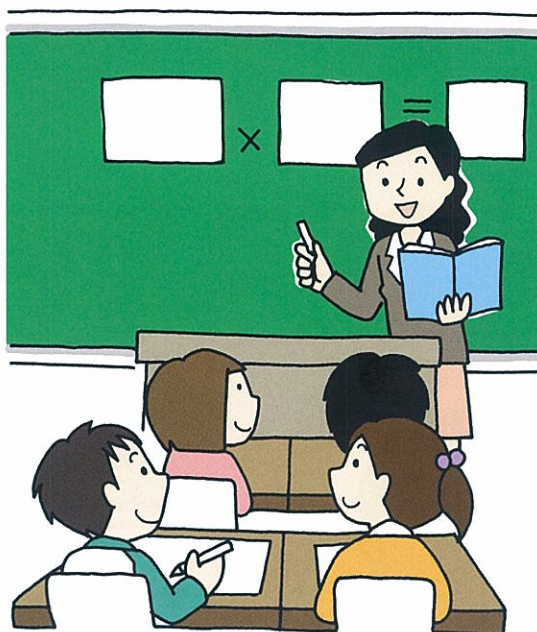
「個別の指導計画」とは、「個別の教育支援計画」をふまえ、学校の教育課程、指導計画に基づき、対象の児童の教育的ニーズに応じた指導目標、内容、方法などをまとめた計画です。

特別な教育的支援が必要な児童は、一人一人の特性は異なるため、個別の指導計画は通常の学級や特別支援学級で学ぶ児童の指導において重要なツールとなります。

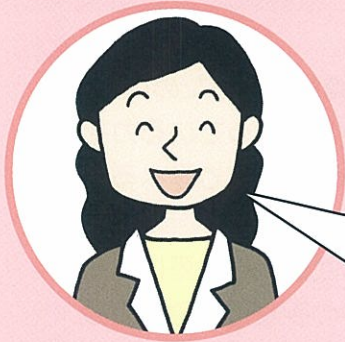
LD、ADHD、高機能自閉症等の児童は通常の学級で学んでいることが多く、担任等がその児童の実態に応じた目標や手立て、配慮事項に基づいた指導を行わないと、一斉指導に無理に合わせたり、不適切な個別指導を行ってしまったりする危険性があります。通常の学級で学ぶ特別な教育的支援が必要な児童に対しても個別の指導計画を作成し、指導・支援を行うことが必要です。

個別の指導計画は、児童の実態に応じた支援をするために作成するものです。目標は実現可能なものとし、対象の児童も先生も前向きに取り組めるものでなければ役に立ちません。

作成することを目的にするのではなく、作って活用することが大切です。



個別の指導計画を作ってみよう



項目は…

書きながら「ぼく」との関わりが整理されるわ。

①児童の実態

場面ごとに区切って実態をみると、目標につながりやすいわ。得意なことも大切ね。

②指導目標

具体的で、張ればできいわね。日本人にとって用感を高めながらね。

	児童の実態	指導目標	指導の手立て
学習面	<ul style="list-style-type: none"> その日によって、教室に居られる時とすぐに飛び出してしまう時とがある。 注意をされると大きな声をあげたり、物を破いたり投げたりする。 興味のあることには、集中して取り組み、自ら技術や知識を高めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室に居られる時間を長くする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室に居る時間（目標）を具体的に示す（〇分とする）。 興味のある折り紙を有効に使う。 教室に居られない時の場所を、本人・関わる人（保護者含む）で決めておく。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> 思い通りにならないと、カッとなってしまい、友達に手を出してしまうことが時々ある。 友達とうまく関わりたいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒にできる活動を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> グループ作りや座席の周りは配慮する。 「ぼく」の得意なところを取り上げ、友達の中で活躍できる場を設定する。

個別の指導計画を実践するには



共通理解

周りの人に、わかってもらっていると、とっても安心していられる。安心してると、イライラすることも少ないみたい。

個別の指導計画を実践するには、校内の共通理解が大切です。

「どうして、何のために、どうしたらいいの」という周りの疑問に対して、「わたし」はこんなふうに話してみました。周りの理解を得られて、「わたし」も「ぼく」も周りもとても楽になりました。

③指導の手立て

得意なことや興味のあることを知っていると、手立てが考えやすいわ。

④実際の支援

「ぼく」の授業場面等での支援の様子を書きとめておくと、有効な支援が蓄積できるわ。

⑤評価

うまくいったことは、継続したいし、うまくいかなかったことは、理由がわかると改善できるわ。

実際の支援

評価

- ・「約束」を決めてカードにした。
- ・イライラする時や教室に居るのがつらい時は、担任に言う。
- ・〇分居られたら、「〇〇へ行っていいですか」と聞いても良い。
- ・〇分過ぎていないときは、「時計の針を指さして〇〇まで頑張れますか」と聞くので、できるかどうかを答える。
- ・国語の時間に教室に居られたら、折り紙を1枚渡した。
- ・行き先は、図書室、職員室とした。

- ・時間を決めることは有効であった。しかし、約束を毎回守らせることは難しい。
- ・興味のある折り紙を使うのは有効だった。国語の時間に1時間居られることが増えた。
- ・行き先を決め、教師間で共通理解できて、安心していられた。

- ・折り紙でポケモンを折るのが上手なので、「〇〇名人」のところで紹介した。
- ・社会科見学で班長になったとき、班長の仕事を書いたカードをリュックにさげた。
- ・体育の跳び箱は、大好きで得意なので皆の見本として、前に出てやってもらった。
- ・座席の周りに、行動の見本となる児童を配置した。

- ・得意なことを通して、友達に認められ、自信を持てた。友達と楽しそうに話している姿を良く見るようになった。
- ・班長の仕事をカードにしてすぐに確認できるようにリュックにさげたのは有効であった。他の活動にも利用できそうである。

<校内支援会議・職員会議で>

【「ぼく」の行動】

- ・今までは、すぐに教室を飛び出して行ってしまったけど、3年生になり、だいぶ教室に居られるようになってきている
- ・時刻はわかるけど、時間の長さや流れをわかるのは苦手なんだ
- ・大きな声や「だめだ」といきなり言われると、「わあー」とわからなくなっちゃう

【「ぼく」との約束】

- ・教室が「ぼく」のいるところです
- ・つらくなったら、「わたし」に言ってください
- ・〇分はいられるようにしてみよう
- ・国語の時間に1時間いられたら、折り紙を1枚渡します
- ・「ぼく」が、つらいときに行って良い場所は、図書室と職員室です

【「ぼく」へのことばかけ】

- ・「わたし」に報告してから教室を出てきたか？と聞いてください
- ・行って良い場所以外で出会ったら、教室に戻るようになってください
- ・大きな声だと、驚いてカッとしてしまうかもしれないので、落ち着いた口調をお願いします

「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成して…

「わたし」は「ぼく」の「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成を通して、以下のようなことを感じました。

仲間づくり

「個別の教育支援計画」の作成にあたり、支援をしているいろいろな人が一堂に会して話し合いを持つことができました。それは「ぼく」を中心にしてたくさんの仲間がつながったということです。学校と家庭、医療がつながり、地域がつながり、みんなが「ぼく」を通して仲間になることができました。そして、「ぼく」と「わたし」もさらに強いつながりができたと思います。それぞれの場所でそれぞれに行われていた支援がつながることは、「ぼく」への指導・支援が共通理解のもとで行われるための第一歩になるでしょう。



学級経営

「ぼく」は支援を必要としています。学級の中の一人です。「ぼく」の毎日の生活には、たくさんの友達もかかわっています。「ぼく」への支援として考えた手立ては学級のほかの子どもたちへも有効です。また「わたし」が「ぼく」の苦手なところや得意なところをよく見つめ、手立てを考えて接する姿を見た子どもたちも、お互いを認め合い、支え合うことができるはずです。その中で「ぼく」もほかの子どもたちも自分の存在を認め、自信をつけていけるでしょう。「ぼく」への支援を考えることは「わたし」の学級経営そのものと言えるかもしれません。



自己有用感

「ぼく」はいろいろな苦手さを持っていますが、同時に得意なこともたくさんあります。「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成することで、さまざまな人たちが「ぼく」のよさを見つけ励まし、また苦手さに対して適切な支援を行うことができました。そのことで、「ぼく」は「こういうふうに応援してもらえればできる。」「頑張ってみよう。」「何か解決方法がある。」「みんなの中のぼくなんだ。」というように自信をもてるようになりました。このことは「ぼく」のこれからの人生にとって非常に大きな財産になるでしょう。そして、「ぼく」が自分のことを知り、さまざまな困難に立ち向かっていける力になるのではないのでしょうか。

本パンフレットを活用して、各学級に在籍している特別な教育的支援が必要な児童の「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、組織的、継続的な支援に努めてください。

なお、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成に関連するホームページがとても参考になります。特に国立特別支援教育総合研究所では、平成20年度から「発達障害教育情報センター」を設置し、最新の情報を発信しています。

発達障害教育情報センター：<http://icedd.nise.go.jp>

群馬県総合教育センターのホームページにも特別支援教育に関する有効な情報が掲載されています。

<http://www.center.gsn.ed.jp>